8 Aug
2025年8月発行　No.89

『心の理論』を学ぼう

　今月の園だよりから、『心の理論』シリーズをお届けします。
子どもは成長の過程で、他人から見える客観視された自我、自分を見つめる自分を形成していきます。いわゆる『メタ認知』です。『他人の目』を理解することで、恥ずかしさという感覚も生まれます。子どもは他者との生活を通して、他人の意図や感情が自分のそれとは違うという体験を重ねていきます。そして４歳頃に大きな変化が起き、他人の視点で考えられるようになり始めます。

　こんな実験があります。①実験者がお菓子の箱を見せ、子どもに「何が入っていると思う？」と聞く。②子どもは「お菓子」と答える。③箱を開けると「鉛筆」が入っている。④実験者が子どもに「(ここにはいない）Ａちゃんにこの箱を見せたら、Ａちゃんは何が入っていると言うかな？」と尋ねる。⑤４歳未満の子は「鉛筆」と答え、４歳以上になると「お菓子」と答える確率が上がる。

　このような他者と自分の視点は異なるという認知は「心の理論」と呼ばれ様々な研究が行われてきました。そして先進国の中で日本は心の理論の発達が遅いという驚きの研究結果があります。「思いやりのパラドックス」と名付けられたこの論考の謎は次号にて。